

流域治水

気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、河川整備の推進とともに、あらゆる関係者と協働して水災害対策を行います。

水防災意識社会再構築ビジョン

国土交通省では、平成27年9月関東・東北豪雨による鬼怒川の堤防決壊で、逃げ遅れによる多数の孤立者が発生したことを受け、河川管理者をはじめとする行政や住民等の各主体が「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」へと意識を改革し、社会全体で洪水氾濫に備える「水防災意識社会」を再構築する取組を進めています。

平成29年5月に水防法等を改正し、河川管理者・都道府県・市町村等で構成し減災に向けた目標の共有や対策の推進に取り組む『減災対策協議会』設置して「水防災意識社会」を再構築する取組を加速させています。



太田川水系大規模氾濫時の減災対策協議会



小瀬川水系大規模氾濫時の減災対策協議会

避難を促す水位情報等の提供(水害リスクライン)

水位や雨量等の河川情報は、地元自治体や地域住民にとって、水害危険度の把握や防災対策を行う上で重要な情報であり、その判断や行動に役立つ情報の整備として、水害リスクラインを導入し、地域住民自ら洪水時の危険度を確認し、的確な判断や行動に繋げられるように、地域住民の目線で情報を提供することで防災意識の向上に繋がる工夫をしています。

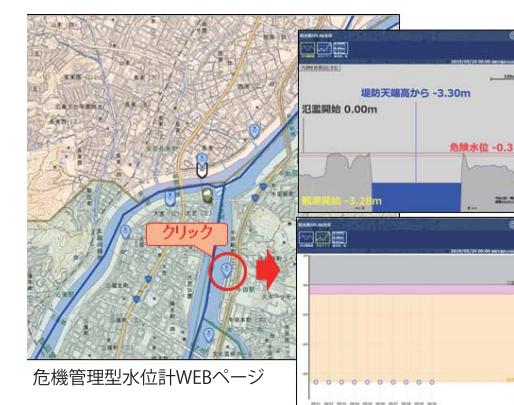


水害リスクライン表示イメージ

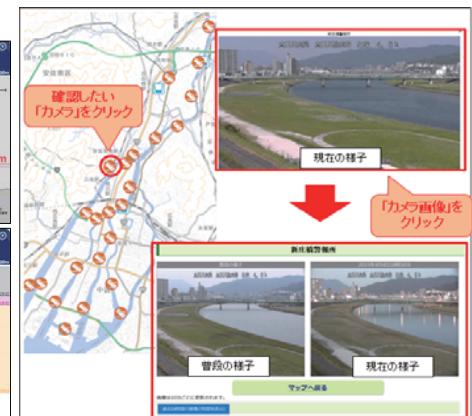
危機管理型水位計の設置・リアルタイム映像の提供

堤防の高さや川幅などから相対的に氾濫が発生しやすい箇所及び行政施設等の重要施設が浸水する可能性が高い箇所に危機管理型水位計を設置し、住民の避難に役立てて頂ける取り組みを推進しています。

また、雨量情報及び水位情報と合わせて、CCTVカメラによる基準水位観測所等の主要地点の画像情報等について、河川情報表示板等の情報インフラ、インターネット及び携帯端末、ケーブルテレビ、地上デジタル放送（データ放送）等を積極的に活用し、危険の切迫度が伝わりやすい情報提供を推進しています。



危機管理型水位計WEBページ



河川のリアルタイム映像の提供

水防災タイムラインの整備

タイムラインとは、災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況をあらかじめ想定し共有した上で、「いつ」「誰が」「何をするのか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した防災行動計画です。

太田川・小瀬川では、洪水・高潮・内水・土砂災害を対象としたマルチハザードへの対応を想定し、関係機関の連携を強化する取り組みを推進しています。



平成31年3月19日
太田川水系大規模氾濫時の減災対策協議会
太田川水防災タイムライン検討会